**[日本政經情勢解析](http://www.tiix.tku.edu.tw/jap/super_pages.php?ID=jap) / 農業的六級產業化**

任耀庭 淡江大學國際研究論壇20170612

1995年世界貿易組織（World Trade Organization，WTO）成立，加上GATT烏拉圭回合農業協定的開放措施，二戰後保護主義掛帥的日韓台農業以及農業政策面臨巨大壓力。

台日韓近年都積極推展農業六級產業化以因應市場開放的壓力。2015年1月韓國農林水產食品部發佈農業成長產業化政策以農業六級產業化強化韓國農業競爭力並擴大其出口。日本安倍政府2016年11月提出農業・地區活力創造計畫(農林水産業・地域の活力創造プラン)提出落實農業六級產業化、地產地銷及促進農產品出口等提升農業競爭力及滿足內外市場需求的對策。台灣2016年12月提出新農業創新推動方案，建構區域加工專區，整合產銷體系及契作開創六級化產業，提升農業競爭力及附加價值，並提高糧食自給率及擴大出口。

21世紀日本的農業政策走向改革，擺脫過往干預市場的做法，日本政府提出六級產業化的概念協助農業提升競爭力。1999年日本訂立「糧食、農業、農村基本法」，農林水產省2000年依法公布10年期「糧食、農業、農村基本計畫」，基本計畫歷經2005、2010及2015年三次的修訂。並2010年具體訂定「六級產業化法」(地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律，簡稱六次産業化法)，鼓勵農民有效利用一級產業的在地資源，開發具有特色的農林漁牧產品，一來振興國家一級產業的發展，更希望藉此提高糧食自給率，達到國家糧食安全的目標。隨著農業開放趨勢，以及為幫助農業生產者因應「跨太平洋夥伴協定」（The Trans-Pacific Partnership，TPP）對日本國內農業的巨大衝擊，日本安倍政府於2013年提出「攻擊型農業」策略，轉換農業的補助方針，破除落伍的行政法規及積極引進先端科技提升生產力的除弊興利下，反守為攻，帶動農業轉型提升競爭力並擴大出口。安倍政府2016年11月接著發佈活化農業與地方經濟計畫方案，提出農業・地區活力創造計畫(農林水産業・地域の活力創造プラン)具體透過農業六級產業化、地產地銷及促進農產品出口等政策落實「攻擊型農業」策略。

農林漁牧業一次產品的加工品附加價值大於一次農林漁牧產品，而餐飲服務的附加價值更大於加工品，若能進一步結合生態導覽、農業體驗甚或周邊溫泉等觀光休閒資源等多目的服務則附加價值更大。為了增加農業的附加價值，提高農家所得，1990年代日本東京大學今村奈良臣教授開始倡議農業六級產業化。今村教授特別指出農業六級產業化概念的精隨在，「六級產業化不是1+2+3，而是1x2x3。」。即今村教授的農業六級產業化概念是以「一級x二級x三級」，實現產業轉型升級的目標。也就是說，如果一個國家的一級產業不具備競爭力，將等於「零」，不管二級與三級產業有多強，相乘之後最終都還是「零」，不會變成「六」。

臺灣要建立正確的六級產業思維，必須從治本做起。過去各國政府對於農民多採取保護政策措施，獲得保護的農民，很難改變其思維。讓經濟問題回歸經濟面，把價格干預的保護措施拿掉，才能讓農民願意進行改革。也才能健全一級產業體質，進一步發展二級與三級產業，朝六級產業化邁進。政府要讓農民擁有改變思維的動力，勇於接受農林漁牧業的市場自由化經濟，過程中，政府必須透過輔導與教育，教導農民如何從單純的農作生產者，轉變成為了解國內外市場的經營者。

在新農業時代，農民必須懂得善用大數據(Big data)、物聯網(IoT)、人工智慧(AI)等新科技，提高農地的單位生產效率，並且利用科技發展出更具有高附加價值的產品，同時達到保護環境，發展多元生態，以及帶動觀光產業的全方位發展。體質健全的農業，再加上整合其他產業資源的六級產業化策略，融合二級、三級產業與一級產業，才能鍛造農業成為具備核心競爭力的六級型產業。而這一切都得先從正確的農業政策開始，進而透過農業人力素質與能力的提升，輔以各方資源的融入，才能循序漸進達成目標。

[**日本政經情勢解析**](http://www.tiix.tku.edu.tw/jap/super_pages.php?ID=jap) **/ 安倍修憲和日本輿論的看法**

徐浤馨 106.6.5

 2017年5月9日日本安倍首相在參議院預算委員會質詢答辯時表明，將在2020年修改憲法第9條和實行。安倍的這項修憲表明，正好是戰後日本國新憲法實行的第70周年，有關修憲的討論，在日本社會各界，特別是學界、輿論界、政界等，對於修憲與否的觀點與意識上的差異，形成修憲派和護憲派兩大陣營。修憲議題在戰後以來一直深受國內及美國和東亞諸國關注的焦點，現在似乎進入到一個嶄新的局面。

 事實上安倍首相在日本憲法紀念日(1946,11,3公布，1947,5,3實行)當天向記者表示，在明定放棄戰爭條文的憲法第9條，希望再增加自衛隊條項入憲的修正案，並且強調此修正案將在2020年亦即東京奧運舉辨的同一年實行。對於安倍此項修憲議題和時間表的言行舉措，可說是戰後歷代首相的首創。

 而安倍所言的修憲案，其意旨在不變更第9條第1項明定的放棄戰爭、第二項不保有戰力的憲法條文規範下，以追加新條文的方式使自衛隊條項入憲案，能賦予符合憲法位階的效力。

 但是關於憲法第9條的討論，從戰後新憲法實施以來，就一直是學界、政界、輿論界高度關注的焦點，且每每日本周邊「有事」之際，便成為討論的話題。然而，若要修憲，不只在執政黨內部要取得諒解，朝野之間也要取得最大共識，以降低修憲的阻礙與難度根據日本國憲法的第96條的規定，關於修憲程序不僅要達到參眾兩院3分之2以上的多數決，而且必須在公民投票當中獲得過半數以上的贊成始能通過。

 雖然安倍修憲在政治途徑上，困難重重，然而輿論界的主張與觀點，也會深深影響日本社會的看法，日本輿論界對於安倍所提修憲的議題贊成與否或支持傾向到底為何﹖以下本文摘錄自《讀賣新聞》、《朝日新聞》、《每日新聞》、《產經新聞》、《日本經濟新聞》等五大報端媒體的〈社論〉主要觀點，試圖進行觀察日本輿論界對於安倍修憲的看法：

《讀賣新聞》：安倍首相對於自衛隊條文入憲一事，確實非常不一樣的想法。雖然安倍申明自衛隊不是軍隊所以並不違反憲法的政府解釋實在很難令人理解，但是將自衛隊附予明確的憲法位階確實有必要且是非常重要的事情。(贊成)

《朝日新聞》：沒必要修改憲法第9條…而且修憲一事曠日廢時實在很浪費國家資源到底有甚麼意義呢﹖即使要增加自衛隊入憲條文，也很難令人信服，同時主張參與聯合國維和活動，只要在第9條的架構內進行即可。(反對)

《每日新聞》：全面否定憲法或是將其神聖化，這都是極端的言論，因此希望社會各界冷靜處理，並且主張朝野政黨之間應該形成共識，深化國際協調主議。(對於首相提案仍有懸念)

《產經新聞》：支持首相針對第9條提出自衛隊入憲的修正立場，且提出對於自衛隊的性質載入憲法是不夠的論調。(贊成)

《日本經濟新聞》：主張自衛隊條項入憲案，務必重視，且對於首相提出修正案給予肯定性的評價。但是，自衛隊入憲案茲事體大，已出現許多正反意見的討論，要求希望能在國會更深入的討論，以取得朝野各界的共識。(對於首相提案仍有懸念)

 綜合上述五大報端的社論主張，清楚浮現各大報輿論的立場與態度，《讀賣新聞》和《產經新聞》持贊成的立場，《朝日新聞》則持反對的態度，《每日新聞》和《日本經濟新聞》雖不否定，但是對於首相的修憲提案仍有懸念因此持觀望的態度。

 顯然安倍修憲這個議題仍會持續擴大到2020年，此項議題在日本國內社會出現修憲派和護憲派的論爭，由於是憲法第9條的修憲問題，也勢必引發東亞周邊各國對於安倍修憲舉措的觀望與警戒。(以上)

[**日本政經情勢解析**](http://www.tiix.tku.edu.tw/jap/super_pages.php?ID=jap) **/ 安倍首相の憲法記念日メッセージ**

石田光義 106.5.29

安倍晋三首相は5月3日、憲法改正推進団体のフォーラムにビデオメッセージを送った。その中で、2020年すなわち東京でオリンピックが開催される年には、新しい憲法を施行させたいと述べた。憲法改正へ向けての強い意欲を明らかにしたのである。

2020年を目途にしたという事は、改憲の発議に必要な、衆参両院での3分の2以上の多数を占め、かつ自民党総裁任期の延長により、2020年まで政権を維持する自信の表れであろう。ている自信の表れであろう。

憲法改正の具体例として、憲法9条と教育の無償化をあげた。

第9条に関しては、現在の条文そのものは変えないで、新たに第3項を設けて自衛隊の存在を明記すると述べた。

「例えば、憲法9条です。今日、災害救助を含め、命がけで24時間、365日、領土、領海、領空、日本人の命を守り抜く。その任務を果たしている自衛隊の姿に対して、国民の信頼は9割を超えています。

 しかし、多くの憲法学者や政党の中には、自衛隊を違憲とする議論が、いまなお存在しています。「自衛隊は、違憲かもしれないけれども、何かあれば命を張って守ってくれ」というのは、あまりにも無責任です。」

自衛隊を違憲とする議論があるから、自衛隊を合憲化する必要があることは、一般論としては認められるが、政府はこれまで自衛隊は戦力とは認められないから合憲であると主張してきたはずである。政府のこれまでの解釈によれば、解釈改憲によって集団的自衛権の行使までも合憲とみなしたのであるから、自衛隊を違憲とする議論を根拠とするのは言いがかりに聞こえて、理由とはならない。

さらに第3項を加えるについて、次のように述べた。

「もちろん、9条の平和主義の理念については、未来に向けてしっかりと、堅持していかなければなりません。そこで、『9条1項、2項を残しつつ、自衛隊を明文で書き込む』という考え方、これは国民的な議論に値するのだろうと思います。」

自衛隊を合憲としてきたのであれば、あえて第3項で自衛隊を明文化する必要はないであろう。そしてもし自衛隊が戦力であるならば、第2項に反することになる。

いずれにせよ、第3項を加えることによる改憲は望ましくない。

[**日本政經情勢解析**](http://www.tiix.tku.edu.tw/jap/super_pages.php?ID=jap) **/ 英国のEU離脱の経済効果**

淡江大學日本政経研究所　小山直則

106.5.22

昨年6月、英国においてEU離脱に関する住民投票が行われ、それをきっかけに英国のEU離脱の貿易への効果に関する分析に注目が集まっています。国際貿易の変動は、標準的なモデルである重力モデルによって、うまく説明できます。重力モデルは、当該国の輸出額や輸入額の変動を、当該国と相手国の経済規模および両国の距離によって説明しようとするものです。さらに、当該国と相手国との間のFTAやEPAの有無に関するダミー変数を加えることにより、FTAやEPAが貿易に与える効果を推計できます。重力モデルのミクロ経済学的な妥当性は、Anderson and van Wincoop (2003)等によって議論されています。

英国がEU加盟国であることが、加盟国との2国間貿易に正で有意な効果を与えていることは、Fournier et al. (2015)やIMF(2016)によって議論されています。IMF(2016)は、英国がEU加盟国であることによって、貿易の拡大がFDIを有意に拡大させるという、誤差修正モデル(Vector Error Correction Model)による分析も紹介しています。

英国がEUを離脱すると、EU加盟国への貿易障壁が拡大する可能性があります。特に、英国のEU加盟国への輸出に大きな影響がもたらされるでしょう。この負の効果を補完するために、英国は第三国との自由貿易協定への動きに出るかもしれません。

豪州の新聞the Australianは、英国の「新TPP」への参加の可能性について報じています。豪州の高等弁務官であり、元オーストラリア外相のAlexander Downer氏が、英国がオーストラリアとともに「新TPP」に参加するかどうかというインタビューに対して、可能性があると答えています。英国のアジア太平洋地域への貿易拡大は、EU離脱の負の効果を補完し、英国に大きな利益をもたらすでしょう。

参考文献

Anderson, J., and E. van Wincoop, 2003, Gravity with Gravitas: A Solution to the Border Puzzle, American Economic Review, 93, pp. 170-192.

Fournier, Jean-Marc, Aurore Domps, Yaëlle Gorin, Xavier Guillet, and Délia Morchoisne (2015), “Implicit regulatory barriers in the EU single market”, OECD Economics Department Working Paper No. 1181, pp. 1-28.

IMF (2016), "United Kingdom: Selected Issues," IMF Country Report No. 16/169, pp. 1-64.

Joe Kelly (2017),” UK interest in future of TPP,” the Australian. January 25, 2017. Accessed on May 20, 2017. http://www.theaustralian.com.au/national-affairs/uk-interest-in-future-of-tpp/news-story/e8df4bff460cbe0dc4484ac3636b6be1

[**日本政經情勢解析**](http://www.tiix.tku.edu.tw/jap/super_pages.php?ID=jap) **/ 海洋國家日本vs.海洋國家中國**

蔡錫勲 / 日本政經研究所副教授 106.5.15

歴史が示すように、敵の敵は味方であるが、昨日の敵は今日の友、今日の友は明日の敵になるという可能性は大いにある。同盟関係は永遠なものではない。あるのはただ一つ、永遠の国益のみだ。かつて、中国が世界の中心だった時期に、日本は遣唐使を派遣していた。第一次世界大戦前後には、日英同盟が結ばれていた。第二次世界大戦中に存在していた米中vs.日本の構造は、戦後、日米同盟vs.中国に変容していった。1972年の国交正常化以来、最悪の状態が続いている日中関係の背景には、大陸国家中国から海洋国家中国への変身が大きな要素として存在している。現代版シルクロード経済圏構想「一帯一路」は具体的な政策である。海洋での権利をめぐる日中摩擦の二ケ所は東シナ海の尖閣諸島と南シナ海の「航行の自由」である。現在の対北朝鮮包囲網は戦前の対日本ABCD包囲網に類似している。最後のカードは石油輸出の停止である。

　図1　中国の防衛費

（出所）2016年版『防衛白書』、p.45。

2017年4月の北朝鮮危機は本物であるのか。軍事衝突直前とまで言われた北朝鮮情勢であるが、現状、危機的状況は回避されているようである。目に見える事実を積み重ねると、ここまでは情報戦及び究極のチキンレースだという真実に辿りつく。「限定合理性」の壁を乗り越えるために、各国の宣伝を「見る」ではなく、「観察する」ことで真の挑発者を知る。北朝鮮はいつも挑発的であるが、トランプ大統領も挑発的である。米朝とも瀬戸際外交を行なって、敢えて緊張を高めて譲歩を引き出す。そのため、自国の国益こそが各国の最大の意思決定基準である。1994年にも、核開発をめぐる米朝の軍事的対立が戦争の一歩手前にあった。この核危機は日本の安全保障政策を変える大義名分となった。今回の危機もそうである。北朝鮮危機は軍事面の日米の一体化を加速させている。日米関係は新たな黄金時代に入る。自衛隊の存在位置付ける2020年の新憲法施行も国民の理解を得やすい。

一方、日本の財務省の貿易統計によると、2012年、日本の中国向けの輸出は10.8％減少し、対中貿易赤字は3兆5,213億円であった。2013年の対中貿易赤字は5兆5,713億円であった。2014年の対中貿易赤字は5兆7,862億円に上った。2015年の対中貿易赤字は過去最大の6兆625億円であった。2016年の対中貿易赤字は4兆6,531億円であった。輸出は2年連続の減少であった。輸入は7年ぶりの減少であった。そして6年ぶりに赤字幅が縮小した（表1）。

トランプ政権は、中国が北朝鮮情勢でアメリカを助けてくれている見返りとして、中国を為替操作国に指定するとの公約を実行していない。日本は貿易面の中国叩きや「取引外交」をあまり行なっていない。

表1　米中との貿易輸出入額

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位：円）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|   | 日本の輸出総額 | 日本の輸入総額 | 米国への輸出 | 米国からの輸入 | 中国への輸出 | 中国からの輸入 |
| 2012年 | 63兆7,446億 | 70兆6,720億 | 11兆1,848億 | 6兆819億 | 11兆5,114億 | 15兆327億 |
| 2013年 | 70兆8,564億 | 84兆6,053億 | 13兆2,064億 | 7兆1,396億 | 13兆52億 | 18兆5,765億 |
| 2014年 | 73兆1,052億 | 85兆8,865億 | 13兆6,488億 | 7兆5,411億 | 13兆3,844億 | 19兆1,706億 |
| 2015年 | 74兆1,173億 | 75兆1,964億 | 15兆932億 | 7兆8,694億 | 13兆23億 | 19兆648億 |
| 2016年 | 70兆392億 | 65兆9,651億 | 14兆1,431億 | 7兆3,084億 | 12兆3,622億 | 17兆153億 |

（出所）財務省の各年度の「貿易統計（速報）」に基づき、著者整理。

[日本政經情勢解析](http://www.tiix.tku.edu.tw/jap/super_pages.php?ID=jap) / 近期日美同盟關係發展之評析

徐浤馨　助理教授

 以美國核子動力航母卡爾文森號為首的打擊群與日本海上自衛隊，從上個月23日起在西太平洋海域的東海上，進行聯合演習。一周後的5月1日，日本防衛大臣更是接受美軍的要求，出動日本海上自衛隊最大護衛艦出雲號（日文：izumo〉「直升機航空母艦」協防美軍海上任務，其目的是威嚇北韓希望金正恩不要進行核試爆，這可說是新安保法案通過生效的一年後，自衛隊首度正式執行「護衛美艦」的實兵行動，這次行動的任務主要負責護衛美軍補給艦的周邊安全和提供後方支援。

 此次日本因應美軍的要求而出動海上自衛隊進行「護衛美艦」的行動，是川普上任後在新的日美關係上正式行使集體自衛權的同盟展現，這也是基於2016年3月生效的日本《安全保障關聯法案》，亦即一般所稱『新安保法』的規範而來，幾乎等同宣告解禁《日本國憲法》第九條所禁錮行使集體自衛權的立場。

 上述提及日本的新安保法，包含一項新的立法和十項修正法，新的立法稱為《國際和平支援法》，此法讓日本可視情況為其他國家軍隊提供「後勤支援」；另十項修正法統稱為《和平安全法制整備法》，其主要內容為日本可行使集體自衛權、擴大自衛隊海外軍事行動任務與範圍等。據此，新安保法正式生效之後，其可能行動範圍在於，日本遭受攻擊時，不僅可以主動出擊，更可在美國等與日本「關係緊密的盟國」受到其他國家武裝攻擊或威脅時，向日本提出防衛支援上的要求，日本則有權行使武力進行介入干預；甚至在去年11月中，在內閣會議上決定派遣自衛隊到非洲南蘇丹進行聯合國維和行動(PKO)，正是基於新安保法中的「馳援護衛」這個新任務，這也是新安保法生效後首次賦予擴大武器使用權限的自衛隊新的任務，事實上這些新安保法的種種措施已經擴大了日本自衛隊原本「專守防衛」的角色與界限。

 日本通過生效新安保法之後，安倍利用該法所賦予的法理權限強化日美同盟合作的範圍，同時也擴大了自衛隊在軍事層次上的活動範圍，實際上也影響了亞太地緣戰略均勢發展，以下從兩個面向討論：

 首先，對中牽制方面。

安倍自第二次上台之後，為因應中國急速擴大軍事崛起，致力於制定新安保法。同時為遏止中國在東海與南海的軍事性活動，美國前總統歐巴馬重視亞太區域安全，乃提出「再平衡政策」，強化日美同盟對抗中國的軍事崛起。在南海方面，剛上任的川普若採取強硬的態度恐會造成中美兩國直接軍事衝突，因此採取以認定重要影響事態的方式，要求自衛隊進行後方支援美國的行動。在東海方面，今年一月，日本自衛隊進行以台海兩岸發生軍事衝突波及日本的有事想定之兵棋推演；二月，日美兩國首腦會議之時，美方再次確認在防衛日本的義務上，日美安保條約第五條是用於釣魚台列嶼。並且當美軍在東海巡弋遭受中國軍事攻擊時，自衛隊應出動護衛美軍船艦，同時也會介入生存危機事態和武裝衝突事態的想定；在上月底五月初，日本派遣海上自衛隊最大護衛艦出雲號以護衛美軍船艦為名，與美軍核動力航空母艦「卡爾文森號」在東海進行聯合演習，更被視為強化日美同盟的象徵，事實上這個象徵劍指中國意味濃厚。

 其次，關於朝鮮半島問題。

安倍首相在今年二月訪美和川普總統進行首腦會談之時，已經針對北韓試射彈道飛彈一事進行磋商，川普考慮包含「一切可能的選擇」的外交解決途徑，當然這個可能的選擇也包含攻擊北韓導彈基地設施的軍事行動、建構南韓薩德飛彈防禦系統(THAAD)等等。若北韓和美國出現軍事衝突，日本將基於新安保法所認定的「重要影響事態」，派遣自衛隊給予美軍進行包含物資補給的後方支援活動，甚至再「生存危機事態」的想定上，若因此日本遭受北韓飛彈攻擊，不僅可利用「武力攻擊事態」所賦予的規範權限行使集體自衛權，同時安倍也可利用新安保法賦予「最小限度」的武器使用進行自我防衛上的主動出擊。不管是生存危機事態或是武力攻擊事態，只要是自衛隊進行防衛出動的話，這就意味著戰爭的開始。在新安保法當中也有關於有事法制或日美防衛合作指針(guideline)的相關規範能夠向美軍提供機場、港灣、民間設施等，同時包含建構新的彈道飛彈防禦系統(BMD)強化日美同盟，以共同對抗北韓的軍事威脅。

 從上述日美同盟關係發展的評析當中，似乎處處可見日本由原來不對等的同盟關係逐漸成為緊密同盟夥伴關係，美方要求日本派遣最大護衛艦出雲號進行聯合演習，共同維護西太平洋地緣戰略安全，即為顯例。這不僅標誌著日本在日美同盟關係中逐漸成為重要且對等的盟友地位，同時安倍利用了朝鮮半島朝核問題，巧妙的運用已解禁的集體自衛權和新安保法所賦予的使用權限，大幅提升日本在亞太地緣政治的大國地位和話語權，可謂是此間最大的受益者。今年前半年因北韓試射飛彈及核試爆問題，使得朝鮮半島周邊各國任何外交與軍事舉措，都將深刻牽引東亞各大國之間的戰略博弈，未來如何發展我們都將密切關注朝鮮半島的動向。(以上)

[**日本政經情勢解析**](http://www.tiix.tku.edu.tw/jap/super_pages.php?ID=jap) **/ 日本的憲法修正暨日本自衛隊護衛美軍之所見**

 胡慶山

 淡江大學國際研究學院日本政經研究所專任教授兼日本研究中心主任

 日本國憲法將在本月3日邁向實施後的第七○周年，但在2017年日本國會眾參兩院的憲法審查會的討論卻無實際的進展。日本第一大在野黨的民進黨以及共產黨等皆主張「反對在安倍政權下將憲法改惡」等等，因而成為放棄作為國會議員應該討論憲法修正工作的原因之一。

 然而，根據2017年5月1日日本產經新聞報導指出，上開的民進黨幹部們曾經呼籲修正憲法第九條等，並提示出具體的提案。諸如，「日本國為求確保本身的獨立與安全，要保持由陸海空暨其他組織所構成的自衛軍」，以及「日本國乃是以國民統合象徵的天皇作為元首之民主主義國家」。上開民進黨的條文雖類似該黨所批判的自民黨黨版的平成24(2012)年修憲草案，但事實上並非如此。

 上開條文乃是，平成17(2005)年舊民主黨(民進黨的前身)鳩山由紀夫前首相在自身的網頁上公佈的「新憲法試案」的一部分。上開的試案亦承認集體自衛權的限定性行使，且亦規定有在緊急事態時日本首相得以發佈緊急命令的條款。說明文內容包括：「刪除現行憲法最具有欺瞞性部分，重要的是，必須是讓任誰皆可理解的條款。本章既是(明文規定保持自衛軍)，關於日本保有做為國家自然權的個別與集體自衛權方面的討論，已不復存在」。甚至亦可見到「明確承認(自衛隊)參加聯合國的國際警察軍活動」的內容。

 鳩山由紀夫的祖父乃是日本自民黨初代總裁的鳩山一郎。其祖父乃是日本憲改派的代表人物，昭和30(1955)年自民黨成立時，黨綱即明確規定「謀求現行憲法的自主性修正」，因而使得鳩山由紀夫對憲改有強烈的動機。

　 此外，曾任日本民進黨憲法調查會長的枝野幸男前幹事長，曾在舊民主黨時代的平成25(2013)年9月的「文藝春秋」(10月號)發表，題為「憲法第九條、我的主張」之修憲案，指出第九條的問題所在，並在第九條追加六個項目，提案承認過去不予承認的集體自衛權的行使條文案。

 再者，日本產經新聞亦報導日本海上自衛隊基於2016年3月實施的安全保障關連法，於2017年5月1日開始實施自平時防護美軍艦艇的「武器等防護」規定。搭載直升機型的護衛艦已於該日上午自日本海上自衛隊橫須賀基地(神奈川縣)，執行防護美軍軍艦任務。此次任務乃是日本現任防衛大臣稻田朋美所下達的命令。乃是首次執行根據日本安保關連法的新任務，顯示出日美堅定的合作關係，以牽制北韓持續的挑釁。

 上開的護衛艦乃是海上自衛隊於平成27(2015)年服役最大的艦艇，甲板所搭載的直升機將執行針對潛水艇的偵察。等到出東京灣後，會在日本房總半島附近海域與美國海軍補給艦會合，甚至到四國附近的海域進行護衛。上開的補給艦預估會對正在北韓實施戒備展開佈署的美國軍艦進行燃料等的補給。至於日本護衛艦將在結束對美軍的護衛任務後，前往新加坡參加國際海上閱兵典禮。

 針對上開日本的憲法修正與日本自衛隊護衛美軍的動向，個人的見解如下：台灣的「中華民國憲法」已修正七次，至今修改七次的「中華民國憲法」仍繼續讓台灣處在是中國的一省之憲法地位，無任何的改變。「中華民國憲法」下的蔡英文總統接受路透社新聞記者的採訪，提出盼與美國總統川普通第二次電話，遭川普的拒絕，乃因「中華人民共和國憲法」習近平國家主席，正在積極處理北韓問題，因此會以與習近平通電話為優先。可見日本的輿論(產經新聞)盼早日修正日本國憲法第九條，以確立可行使無限定的集體自衛權的自衛軍；反觀台灣經過的七次修憲的「中華民國憲法」，仍繼續使台灣在一中原則下處在不服從「中華人民共和國憲法」的叛亂狀態下，逼使美國不得不以「台灣關係法」強化台灣的自衛力，亦使得台灣的軍艦無法如同日本般的協助美國處理北韓的挑釁問題。台灣2300萬人在「中華民國憲法」下，永遠必須面對所謂的「中國大陸」問題。

[**日本政經情勢解析**](http://www.tiix.tku.edu.tw/jap/super_pages.php?ID=jap) **/ 美日經濟對話登場**

 任耀庭 20170417

美國川普政府與日本安倍政府的首次美日經濟對話即將於2017年4月18日在日本登場。川普總統要求日本減少對美國貿易順差是美日經濟對話機制誕生的原由。美國副總統彭思掛帥與日本麻生副總理領軍的雙方團隊將就美日的貿易、匯率與金融等問題進行協商。減少美國對日本貿易逆差的議題中汽車、農產品是可能被檢討的特定品目。日本麻生特別提出希望基礎建設投資等的經濟合作領域也能納入對話範圍。

二戰後的美國與日本的貨品貿易雙邊談判始於1960年代後期的紡織品談判，其中1980年代的汽車及1990年代的半導體談判舉世聞名。特別1980年代，1985年G5廣場協議後日円對美元開始大幅升值過程中，日本對世界的財貨貿易順差持續擴大，而日本對美貿易順差也仍然持續增加只是幅度較小。日本出口價格彈性值的絕對值小於其進口所得彈性值，意涵日本的出口增加特別在1985年以後主要是貿易對手國的經濟發展上的需求導致對日進口的增加。1990年代日美的貿易失衡產品從汽車擴及電腦、VTR/DAD[[1]](#endnote-1)[1]與半導體等高科技品目。

美日汽車談判1981年以日本接受美國要求實施出口自我設限(VER)的方式獲得初步解決，其後持續至1994年。美國另外對迴避自我設限到美國當地投資生產的日系汽車公司則增加自製率的規定，美國也同時要求日本增加美國汽車及其零組件的進口，要求日本檢討改善其國內汽車市場的排他性交易習慣與制度(系列交易)。

而半導體的貿易談判起源於1980年日本對美半導體貿易收支首次由逆差轉為順差，1981年雙方政府開始協商，首先達成調降關稅協議，1986年基於擴大貿易的前提雙方簽署日美半導體協定。之後日本市場的開放議題就一直成為雙方爭議的焦點，1991年的新協定中明確要求1992年日本應增加美國半導體進口達到日本市場比重的20%以上。此要求也使雙方的談判議題擴大到當時NTT及日本國公立大學大型電腦採購等政府採購的其他問題上。

事實上美日的貿易協商至此雙方談判議題已由貿易財貨品目延伸至日本國內市場的開放及產業組織結構的改革，其中特別是開放美國具競爭優勢的金融及流通業等服務業市場以及調整結構。

1989年美日結構協議(Structural Impediments Initiative, SII)正式啟動，美日貿易談判也移轉為美日經濟結構談判的方向。1990年結構協議的最終報告書列舉美日經濟結構的改革方向。日本國內必要改革的六大項目為，1改善儲蓄投資失衡結構提升國內社會資本投資消化日本超額儲蓄抑制經常收支順差的持續

擴大，2改善國土利用鬆綁都市計劃、建築法規及土地稅制提高土地利用效率改善國民生活品質，3改善流通結構放寬流通業如大規模零售業（量販店）的限制措施、加速港灣整建及通關便捷化提高市場開放性，4改善排他性交易習慣及加強獨占禁止法(日本公平交易法)的實施、行政指導透明化及獎勵企業對國內外的無差別性採購促進市場自由公平競爭增加外國企業的參與機會，5改善系列化的企業關係排除外國企業進入日本市場障礙、修訂外匯法規促進外資對日投資及技術移轉的自由化，6活化價格機制減低國內外價格差距提高國民生活品質促進進口。

美國國內改革的七大項目各為，1改善儲蓄投資失衡結構削減美國財政鉅額赤字，2加強美國企業的投資與生產力，3改善美國企業行動模式，4減少政府管制如Cocom的管制措施，5提升技術研發活動，6強化美國產品的海外行銷，7提升人力資本如勞動者等的教育、訓練等。

鑑古不見得知今。但美國過去的經驗告訴我們，美國對貿易逆差的處理模式開始時採取策略性貿易政策，政治性的管理貿易手法，但最後還是回歸到雙方經濟結構調整的基本面議題的討論。另一方面，1995年WTO成立後，美日貿易談判日本更以美國持續要求進口自主擴大（VIE）是違反WTO的自由貿易精神予以回絕，並中斷特定品項貿易協定的延長。

美日經濟對話另一個不能不注意的面向是21世紀日本對美國的經常收支順差的來源已經發生變化，財貨貿易順差比重目前下降至一半程度，而日本對美投資收益所得收支順差比重增加至40%以上。日本已經不再靠本國製造出口創造收益，而是轉由運用累積的經營經驗、技術、能力創造在美國的投資收益。而這也要拜美國1980年代對日本出口企業施壓所賜。貿易收支失衡問題無法侷限在貿易層次覓得解決之策。

1. [1] Digital Audio Disc Player的簡稱。 [↑](#endnote-ref-1)